

会 議 録

会 議 名 称	令和元年度 第1回加古川市立学校校区審議会
開 催 日 時	令和元年10月23日(水) 午後2時00分から午後3時15分まで
開 催 場 所	加古川市役所新館9階 191会議室
出 席 委 員	大西 なつみ委員、川尻 誠委員、吉山 昌子委員、岸根 真弓委員、大森 俊昭委員、宮城 愛委員、岸本 敏和委員、三宅 美由紀委員
傍 聴 人	なし
会 議 次 第	1 開会 2 委嘱状の交付 3 教育長挨拶 4 委員紹介 5 会長及び副会長の選出について 6 議事 (1) 規定及び令和元年度加古川市立小・中学校の就学状況 ①加古川市立小学校及び中学校校区規則について ②就学すべき学校の変更について ③児童生徒数及び学級数について 7 その他 8 閉会
配 付 資 料	冊子「令和元年度第1回加古川市立学校校区審議会」

審議内容（発言者、発言内容、審議経過等）	
1 開会 2 委嘱状の交付 3 教育長挨拶 4 委員紹介	小南教育長挨拶 ・各委員紹介 ・事務局職員自己紹介 ・司会より会議の成立報告

<p>5 会長及び副会長の選出について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・司会より事務局案（会長に大森委員、副会長に吉山委員）を提案。 ・委員より異議なしとの声を得て、会長に大森委員、副会長に吉山委員を選出。
<p>(会長)</p>	<p>最近、他市では教員間のいじめがあったが、その学校に通う子どもたちがどれほど心を痛めているかを考えると、子どもたちへの影響も大きいと思う。子どもたちは学校を選ぶことができない。決められた校区の学校に通うことになるが、学校が一人一人の子どものために最適な教育をしてもらえるものと保護者は期待されている。</p> <p>本日はそれぞれの立場から、校区を中心に教育のことについて、忌憚のない意見をいただきたい。</p>
<p>6 議事 (事務局)</p>	<p>(1) 規定及び令和元年度加古川市立小・中学校の就学状況</p> <p>①加古川市立小学校及び中学校校区規則について</p> <p>「加古川市立小学校及び中学校校区規則」及び「加古川市立小学校・中学校の校区を定める要綱」に基づき、小学校及び中学校の校区割について説明・報告。</p>
<p>(委員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・質疑なし
<p>(事務局)</p>	<p>②就学すべき学校の変更について</p> <p>「就学すべき学校の変更に関する要綱」に基づき、校区外・区域外就学を許可する基準及び申請・許可状況について説明・報告。</p>
<p>(会長)</p>	<p>「校区外就学」と「区域外就学」の許可件数は。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>「校区外就学」と「区域外就学」の内訳については持ち合わせていないが、区域外就学については、許可基準のうち「①学期途中で転居する場合」や「⑨保護者の就労による場合」で許可しているケースが多い。一方、「⑫地理的な理由による場合」「⑬部活動による場合」「⑭町内会の加入による場合」については、校区外就学のみ許可しており、区域外就学は認めていない。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>③児童生徒数及び学級数について</p> <p>令和元年5月1日現在の児童生徒・学級数及び令和7年度までの児童生徒・学級数の推計について説明。</p>
<p>(会長)</p>	<p>学級数が減少しているが、学校運営上、気になることはあるか。</p>

<p>(委員)</p>	<p>以前は平岡小学校も4学級あったが、現在は2～3学級と減少し、子どもたちの競争意識が低下していると感じる。八幡小学校も、以前は全学年で2学級あったが、単学級がでてきた。そうなると、限られた人間関係の中で学校生活を送ることになり、いい面もあるが、満足してしまっているという姿も見えてくる。</p> <p>ただ、児童数の減少については1学校単位ではどうすることもできないので、市全体で子育てに魅力のあるまちづくり、市外からの流入者が来られるような働き場所のあるまちづくりなど、大きなスパンで子どもの数を増やしていくべきではないかと考えている。</p>
<p>(委員)</p>	<p>神吉中学校については1学年6～7学級である。競争もしながら、それぞれが活躍できる場もあり、適正な規模であると考え。1学年9～10学級となれば、一つの行事を行うにも時間がかかり、大変である。小規模校においても、工夫をしながら行事を実施されているが、子どもたちの競争心を養うという面では課題もある。</p>
<p>7 その他</p>	
<p>(委員)</p>	<p>志方地区の3小学校は児童数が少ない中、マラソン大会を合同で行う等、さまざまな工夫をされていると聞く。ただし、合同で行うとなるとどうしても移動に時間がかかり、内容に割く時間が短くなる。現在はどのようにされているかわからないが、市が移動手段としてバスを手配するなどの支援があればよいと思う。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>ユニット12の中で、志方地区は1中学校、3小学校、2保育園(こども園含む)で取り組んでいる。多様な活動をするために、自校でできることと、多くの人数でできることを区別して考える必要がある。現在、マラソン大会や自然学校等の行事を3小学校合同で行っている。また、今年度については、3小学校を集めて合同授業の取組も行っている。しかしながら、ご指摘のとおり移動に時間がかかるため、一部、市がバスを手配して移動時間を短縮し、活動内容の充実を図っているところである。</p>
<p>(会長)</p>	<p>今年8月、加古川市教育委員会において「加古川市立小学校・中学校の学校規模適正化及び適正配置に関する基本方針」が示されたが、学校の校区にも関係する事柄であるため、内容について説明していただきたい。</p>

(事務局)	「加古川市立小学校・中学校の学校規模適正化及び適正配置に関する基本方針」に基づき、基本方針について説明。
(会長)	事務局の説明をうけて何か意見はないか。
(委員)	西神吉小学校はほとんどの学年が2学級であるが、神吉中学校は1学年6学級以上ある。運動会も人数が増えると迫力が違うし、子どもが減るのは寂しいので、ほかの地域から加古川に人がやってくる、子どもが増えていけばいいと思う。
(会長)	西神吉幼稚園はほかの幼稚園より早い時期から2年保育を実施しており園児数も多かったが、現在は、園児数も少なくなっており驚いた。
(委員)	幼稚園の園児数が減少しているのは、働くお母さんが増えてきたからであると思う。一方で、保育園の待機児童は増えている。
(委員)	子どもたちにとって何が一番よいかということに加えて、地域にとって何がよいかの視点もあわせて考えていただきたい。一番の問題は人口が減少していることである。もし、学校が統合されて、地域の拠点がなくなると、地域にとってはマイナスであると思う。
(委員)	<p>山手中学校区でも人数が減っていて、クラス数については毎年話題にあがる。もともと陵南中学校ができるまでは山手中学校に3小学校が集まっていたが、現在、神野小学校の児童については、陵南中学校と山手中学校に別れて進学している。かつて山手中学校に通っていた保護者からは子どもを山手中学校に通わせたいという声も聞く。神野小学校の児童が全員、山手中学校に進学するとなれば、陵南中学校は野口北小学校の児童のみとなるため、いろいろ問題があるように思う。また、八幡小学校については市街化調整区域の関係で人数が増えにくくなっている。家を建てるにも制限がある等、Uターンしにくい状況が存在するため、もう少し緩和することができないか尋ねたことがあるが、難しいように感じた。</p> <p>幼稚園については、稲美町や播磨町、明石市などが3歳児からの幼稚園の受入れを行っているのに対し、加古川市では4・5歳児のみの受入れとなっている。そうすると、幼児教育・保育の無償化もあって保育園に人が流れる。また、幼稚園に通わせたいが、預かる時間が短いので難しいと子育て中の保護者からも意見が出ている。</p>

(会長)	<p>校区については、町内会との関係も深い。山手地区だけでなく平岡地区でもユニットのエリアと町内会のねじれが生じているが、何かご意見はあるか。</p>
(委員)	<p>児童生徒数が増えていた時代は、学校を分割する必要があり、約 30 年前に陵南中学校も設置された。生徒数を考慮し、最終的には、神野小学校の児童が山手中学校と陵南中学校にわかれて進学することになった。その後、各中学校区に公民館を1つ設置することになり、陵南公民館ができたが、町内会が分断されると学校も困るし、地域も困るので、今後は、そのようなことがないようにしていただきたい。</p> <p>学校規模の適正化の問題については、校区審議会で議論するのか、それとも別の場でとりあげるのかをしっかりと決めておく必要がある。そうしないと、校区審議会の意見がひとり歩きしていく可能性がある。また、アンケートなどで意見を収集するとなった場合、現在の保護者、地域の高齢者、将来、就学する子どもの保護者によって意見は全く異なるものになる。アンケートだけで判断すると、地域がばらばらになってしまう可能性もある。それぞれの立場によって意見は異なるが、地域のことを考えるならば、地域コミュニティを中心とした校区割にしてほしいと思う。いくら人数が少なくても、地域のことは地域で頑張る姿勢も大切であり、学校の統合が全てではない。そうすることによって、校区で自分たちの学校を守ろうという風土もうまれると思う。人口を増やすということも現実的には難しいので、少子化に対応できる校区というものを考えていただきたい。</p>
(会長)	<p>加古川市内でも市街化調整区域において、町内会が一定のエリアを決め、建築物の高さや外壁の色などを決めて地区計画をつくった地域がある。その結果、多くの住宅が建ち、子どもが一気に増えた。子どもたちが外に出て遊んだり、保護者も近所の人と話をしたりするなど、新しいコミュニティができています。子どもたちにとっても、いろんな人との関わりができるのはよいことであると思う。</p> <p>基本方針についてはパブリックコメントも実施し、いろいろな市民の意見もあったかと思うが、今後の進め方について伺いたい。</p>
(委員)	<p>学校選択制の導入については、慎重に考えた方がよいと思う。近所に住んでいる子どもがいろいろな学校に通うということになれば整理がつかない。</p>
(事務局)	<p>学校選択制の導入については、通学路の設定なども含めて複雑になる</p>

<p>(委員)</p> <p>8 閉会</p>	<p>ため、難しい部分がある。一般的な規模適正化の手法の一つとして資料には示しているが、必ずしも学校選択制を導入するというものではない。</p> <p>また、基本方針の策定にあたり約 60 件のパブリックコメントをいただいたが、そのうち 11 件が山手・陵南中学校区に関するご意見であった。それが大勢のご意見というわけではないかもしれないが、そのような声も大切にしないといけない。</p> <p>神野小学校については、2つの中学校にわかれてしまうという状況にあることに加え、公民館単位で実施する事業や、ユニット12の活動についても連合町内会単位では必ずしも一致しないという問題もある。神野小学校では、今後設置される学校運営協議会においても、地域にとってどのような方法がよいのか、しっかり議論していただき、ある程度の方向が見えてくれば、行政としても支援させていただきながら、よい方向に進めていきたい。</p> <p>まずは子どもたちにとってどのような環境がよいのかを第一に考えないといけないが、一方で地域のことについてもバランスをとって考えていく必要がある。</p> <p>このたび基本方針を策定したが、すべての地区で学校規模の適正化を一度に進めていくことは難しいため、とりわけ子どもの数が減ってきている両荘地区から検討していきたい。学校運営協議会のほか、地域のご意見をお伺いする場も設けながら、よりよい方向に進めていきたいと考えている。行政が一方的に決めるのではなく、地域のみなさんの声を聞いて、賛成・反対の両方のご意見がある中、どこで折り合いをつけることができるのか見極めながら進めていきたい。</p> <p>学校規模の適正化を進めるにあたっては、やはり地域のコミュニティを一番に考えてやってほしいと思う。ほかの校区とのバランスも考えるうえで、モデルケースとして陵南中学校区を1中学校1小学校とすることもよいのではないかと思う。ただし、地域コミュニティにあわせて校区を変更することになれば、子どもたちにとっても影響があるので、今後の課題ではある。</p>
-------------------------	--